

令和二年度 奈良県教育長賞

「税金に対する意識」

奈良学園高等学校 二年 瀬川 華花

私は幼い頃、不思議に思っていたことがあった。それは祖母と遊園地や動物園など色々な場所に出掛けた時に、なぜか祖母の入園料が割引されていたことだ。しかし、私は成長していく中で障がい者割引というものがあることを知った。祖母は身体障がい者の為、多くの施設で入園前に障がい者手帳を見せていたことを思い出した。

私はそれまで税金というものをあまり詳しく知らずに、消費税を払うこと以外は自分とはあまり関係のないことだと考えていた。しかし、祖母が税金に支えられていることを知ってから、自分自身も何かしらの形で税に支えられているのではないかと考えるようになった。それから、私は税金というものは具体的にどんな種類があるのかについて調べた。すると、酒や、たばこを買う時に消費税とは別に払うべき、酒税やたばこ税というものが存在していることや、今まで聞いたことのなかったゴルフ場利用税や入湯税というものを知った。税金は私が思っていた以上に身近なものだった。私たちが払った税金というものがどう使われているかについても詳しく調べてみた。税金は医療・福祉・年金・公共事業・教育など、子供から高齢者まで幅広い世代の国民の生活を支える為に使われていることを知った。

そのことを知ってから、増税に関する考え方も変わった、今まで私は、増税するというニュースを見た時、消極的な感情を抱いていた。しかし、税金の偉大さを知ってからは、後々医療や教育などに形を変えて私たちの生活を豊かにしてくれる税を払うこと、増税されることは当然であり消極的に捉えるべきことではないと思った。税金の使い道を知る前の私のように、増税されるという目の前の事実だけを見て、受身的に納税するのではなく、国民がそれぞれ納税する意味や払った税金が後々私たちの生活をどのように支えるのかを理解して納税という国民の義務を果たすことが大事だと思う。

他にも、自分なりに税金が必要な理由を考えてみた。考えられる理由の一つは、もし税金が無ければ公共のサービスが有料になり、お金がある人だけが豊かで便利な生活を送れる世の中になってしまうということだ。事件が起きてもお金を払わないと警察に協力してもらえず、火事が起きてもお金を払わないと消防隊は火を消してくれない。とても生きづらい世の中になってしまう。

税金について深く考えることで私はこう思った。税金を払うことで、自分だけでなく他の国民も支え、今だけでなく未来を支える。大人になっても、この考えを忘れずにしっかりと税を納めて、税金に感謝できる人になりたい。